

プ ラ ザ

第 24 回医科学フォーラム  
The 24th Medical Science Forum (MSF)

松 本 晶 平<sup>1)</sup>      金 子 清 俊<sup>2)</sup>  
Shohei MATSUMOTO, Kiyotoshi KANEKO

オーガナイザー

<sup>1)</sup>東京医科大学麻酔科学講座

<sup>2)</sup>東京医科大学神経生理学講座

第 24 回医科学フォーラムが 9 月 24 日に東京医科大学病院臨床講堂で行われた。オーガナイザーの金子清俊教授から開会の挨拶があり、最初に当院麻酔科学講座の小澤拓郎先生により「麻酔深度の新しい指標」と題した講演が行われた。患者の意識レベルを術中の脳波を数値化して把握し、麻酔深度を調節する新しい BIS モニターについて、その有用性と最先端の知見が多くの実測データを基に発表された。質疑応答では基礎講座の先生からも質問があり、活発な議論がなされた。

招待講演は、九州大学名誉教授大村恒雄先生による「薬物代謝と P450」と題する講演であった。大村先生は薬物の解毒分解酵素である P450 を発見したことで世界的に有名で、現在 P450 について世界中で研究がなされており、関連する論文は年間 2000 本ほどになるとのことである。講演は、スライドを使用しながら独特のゆっくりとした語り口で行われ、我々臨床医にも分かり易いものであった。一口に P450 といっても実は多くの酵素群の総称であり、近年では CYP と呼ばれている。これらには解毒酵素のみならず、ステロ

イドの合成などを行うものも含まれる。CYP には遺伝的多型があるものが知られており、ある薬物の効果が、人によって著しく異なるということが起こる。この CYP 群は、植物にも認められ、生物の進化とともにファミリーを増やしてきたと考えられる。太古の昔から生物を支えてきた P450 の役割と、その発見者である大村先生に感銘を受けた講演であった。基礎、臨床講座の参加者による質疑応答が活発になされ、山田仁三教授の挨拶を持って閉会となった。その後カフェテリアで講演者を囲んで懇親会が行われ、参加者の親睦を深めた。

医科学フォーラムが発足して 24 回を数える。フォーラムは我々臨床医にとって普段あまり交流の無い基礎の先生方と話ができる貴重な機会である。現在新宿キャンパスは基礎と臨床が物理的に分断されている。キャンパスが一体化し、基礎と臨床がより緊密な連携が取れることを願いつつ、フォーラムの報告としたい。

(文責 松本晶平)